

第2章 教育施設の整備における目指すべき姿

第2章では、本市の教育施策に関する上位計画「那須塩原市教育振興基本計画」(H29.3)で掲げられた施策を基本に、それらを実現するために教育施設としてどのような機能・性能が必要となるかを検討し、その基本的な方向性を目指すべき姿として整理しています。

2.1 安全性

安全・安心な教育施設づくり

教育施設は、市民にとって重要な学習の場所であるとともに、災害時には避難所としての役割を果たす必要があります。

そのため、教育施設の劣化状況を的確に把握したうえで、安全確保に最大限配慮して計画的な施設整備を推進します。

2.2 快適性

誰もが利用しやすい教育施設づくり

様々な利用者が活動する場である教育施設は、誰もが支障なく活動できる環境であることが重要です。また、快適性を高めることで教育の質的な向上を図ることも重要です。

そのため、誰もが快適に利用しやすい教育施設となるよう設備の充実を図るとともに、施設改修時には、室内環境の快適性にも配慮して整備水準を検討します。

2.3 利用者ニーズへの適応性

利用者ニーズに柔軟に対応した教育施設づくり

教育施設の長寿命化に向けては、躯体が健全であることはもとより、時代とともに変化する利用者ニーズに適応し、機能が陳腐化しないように維持していくことも重要です。

そのため、利用者のニーズを的確に把握したうえで、教育施設の機能の長寿命化を図るとともに、施設規模及び施設配置のあり方の継続的な改善に努めます。

2.4 環境への適応性

環境にやさしい教育施設づくり

教育施設は、公共施設の延床面積の過半数を占める主要な位置づけにあることから、エネルギーの合理的利用や環境負荷の低減に率先して取り組むことが重要です。

そのため、施設におけるエネルギーの合理的利用等に留意したうえで、整備水準を検討します。

2.5 地域の拠点化

地域拠点としての教育施設づくり

学校や公民館、図書館、スポーツ施設等、教育施設の多くは、様々な面で地域の拠点としての役割を担っています。

そのため、平常時・災害時ともに地域拠点として必要な機能を確保できるよう留意したうえで、計画的な施設整備を推進します。

2.6 持続可能性

経済的に持続可能な教育施設づくり

本市の厳しい財政状況のもと、長期にわたって継続的に施設を維持・更新していくためには、建設段階でのイニシャルコストの縮減はもとより、維持管理等のランニングコストの適正化を図っていくことが重要です。

そのため、利用者ニーズ等を踏まえた機能の充実・見直しを図るとともに、将来の見通しを踏まえた施設の統廃合や複合化など、財政的に持続可能で計画的な施設整備を推進します。

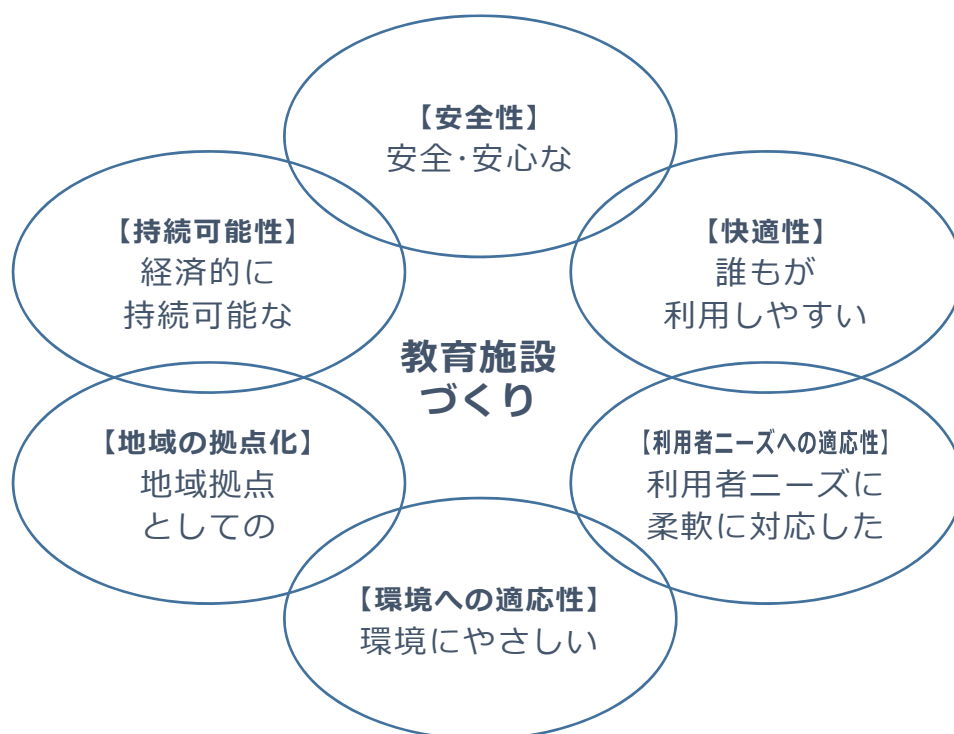


図 2.1 教育施設の整備における目指すべき姿